「日々の理科」（第 4021 号）　2025,-8,10

「北海道一周鉄道旅行（24）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka

根室本線の厚床駅（あっとこえき）からは、かつて「標津線（しべつせん）」というローカル線が分岐していました。

（国土地理院航空写真 1978 年）

写真は 1978 年の厚床駅付近の航空写真です。左下が厚床駅です。分岐駅で始発列車も多かったので、たくさんの留置線があります。右下に分岐しているのが根室本線の根室方面で、これは現在でも営業中です。右上にカーブを描いているのが、標津線の中標津（なかしべつ）方面の線路です。

当時の路線図を見ると、標津線には２つの系統があったこともわかります。一つは釧網本線の標茶（しべちゃえき）から、中標津を通って、根室標津（ねむろしべつ）までの路線です。中標津のとなりの「上武佐（かみむさ）」という駅は、映画「遥かなる山の呼び声」の中で、警察に追われている田島耕作（演；高倉健さん）が、兄（演；鈴木瑞穂さん）と再会するシーンに使われました。

「上武佐駅の高倉健」（画；C.Tanaka）

その兄が乗った列車を見送るシーンが、とても印象的でした。もちろんこの駅も標津線廃線と同時に廃止になっています。

もう一つの標津線が、根室本線の厚床駅から中標津までの支線です。ほとんど何もない根釧原野を突っ走る路線でした。

私はどちらにも乗りましたが、最初に乗った時、中標津から厚床行の列車が大幅に遅れて（遅れた原因は忘れました）、厚床で根室本線の最終を逃したことがあります。とりあえず駅前の定食屋に入って「困ってます」と話したら、店の２階の空き部屋に泊めてくれました。今はそのお店もないでしょうね。

厚床駅の前後の線路は、根室本線のこの区間でも、

特にシカの飛び出しが多い区間です。運転士さんのほかに「動物監視員」が同乗し、遠くの動物の発見に努めています。ほかにも、動物用の警笛の装備、線路脇のシカ防護柵など、JR 北海道はさまざまな策を講じていますが、効果は限定的です。この日も、釧路～根室往復の間に、シカ飛び出しで１０回以上減速や停止がありました。

監視員さんは、動物発見、衝突時のマニュアルを持っていました。「確認できない時は列車を止めること」と明記されています。

実際に厚床を過ぎて間もなく、線路にシカを発見しました。親子と思われるシカ２頭でした。幸い直線路で発見が早く、警笛の音で去ってくれました。

列車は終着根室に近づき、ゆるやかな丘陵地帯を走ります。宗谷本線北部の景観と似ています。

丘の上で、短い区間ですが、太平洋が見えるところがあります。このあたりが根室本線の車窓景観のハイライトと言えるでしょう。この日は２羽の「オジロワシ」も見られました。

終着駅根室の手前のカーブに、駅のホームがあります。これは「東根室駅の駅跡」です。根室駅よりもわずかに東にあり、今年（2025 年）の 3 月に廃止されるまでは、「日本最東端の駅」でした。

いよいよ終着根室駅が近づいてきました。どの線でも「ここで行き止まり」という終着駅はいいものです。